



とびっくす

No.130

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)

令和8年度春季ヤマトシジミ資源量調査結果 ～漁獲対象のシジミ資源は高水準を維持～

島根県水産技術センター内水面浅海部では、毎年6月(春季)と10月(秋季)に宍道湖に生息するヤマトシジミ(殻長2mm以上)の資源量を推定するための調査を行っています。今年度の春季調査を令和8年6月1、2、4、5日に実施したので結果を報告します。

調査方法

図1に示す調査定点(126ヶ所)において試験船「ごず」を使用し、スミス・マッキンタイヤ採泥器で各定点2回(面積0.1m²)、湖底の砂泥と一緒にヤマトシジミを採集しました(湖底地形の変化により1点欠測)。採集した砂泥サンプルは、フルイでヤマトシジミをサイズ別に選別し、生息密度と水深別の漁場面積から宍道湖全体の資源量を算出しました。

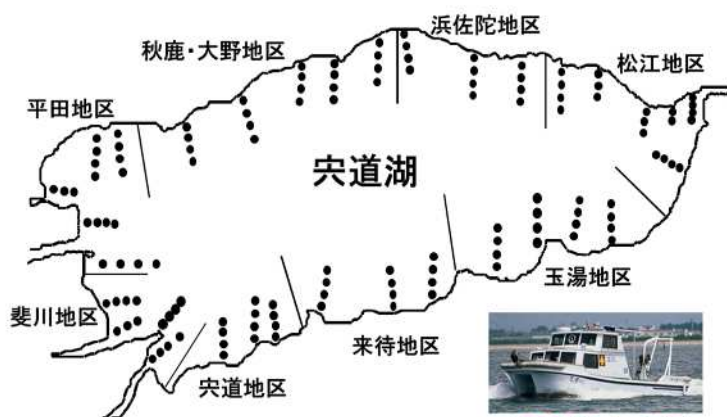


図1 調査地点

試験船「ごず」

調査結果および考察

令和8年度春季のヤマトシジミの資源量(表)は約5.5万トン、約1,487億個が生息していると推定されました。昨年秋季(約7.3万トン)と比べると、約1.8万トン(24%)の減少となりましたが、昨年春季(約3.5万トン)からは約2万トン(57%)の増加でした。秋から春にかけての減少は例年みられるもので、昨年春からの増加傾向は継続していると判断されます(図2)。

内訳をみると、漁獲対象となる殻長17mm以上は約3.6万トン、約112億個でした。これは、春季資源量調査の過去24年平均値(約1.8万トン)の200%で、昨年春季(約2.2万トン)から大きく増加しています。

表 令和8年春季のヤマトシジミの資源量

サイズ		重量 (トン)	個体数 (億個)
未成貝	殻長12mm未満	6,649	1,242.5
成貝	殻長12mm以上17mm未満	13,001	132.0
	殻長17mm以上(漁獲対象)	35,523	112.4
	成貝合計	48,524	244.4
全資源量		55,173	1,486.9

今後の見通し

前述のとおり漁獲対象資源重量は昨年春季に比べて大きく増加(64%増)し、これまでの春季調査結果中3番目の高水準となり(図2 青線)、個体数も昨年春から大きく増加しました(図3 青枠)。

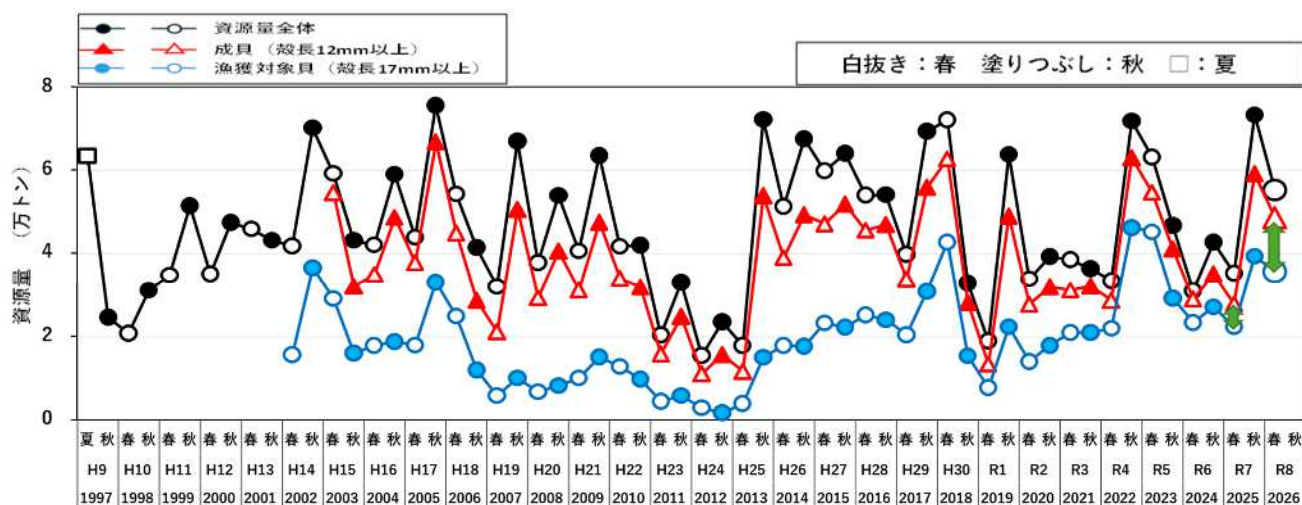


図2 宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

宍道湖漁協では令和4年秋から令和6年春にかけての漁獲対象資源重量の急減(50%)を機に、令和6年8月から機械掻き操業の漁具(ジョレン)の目合いを拡大(11mm→12mm)して、殻長17~19mmサイズのシジミの漁獲を軽減しています(図3 青枠 中灰色部分)。この管理対策開始以降、漁獲対象資源の減少に歯止めがかかり、昨年春から秋にかけて急激に増加し、今季も高水準を維持していました。ただし、その効果の評価には今後のデータの蓄積が必要です。

漁獲対象となる直前の小型成員(殻長12mm以上17mm未満)の重量は令和4年秋から減少傾向にありましたが、昨年秋季以降大きく増加しています[図2: 成員(赤線)と漁獲対象員(青線)との差分、上下緑矢印]。また個体数密度でも昨年春と比較して大きく増加していました(図3 緑枠部分)。

現在のところ、漁獲量は高水準にある漁獲対象資源に支えられており、安定しています。また小型成員も回復傾向にあることから、中期的にも明るい見通しとなりました。

さらに未成員(殻長12mm未満)の個体数も昨年春季以降安定しており(図3: 黄枠部分)、長期的にも期待が持てる状況です。

今後も資源動向を注視するとともに、引き続き漁獲対象資源の計画的な利用が望まれます。

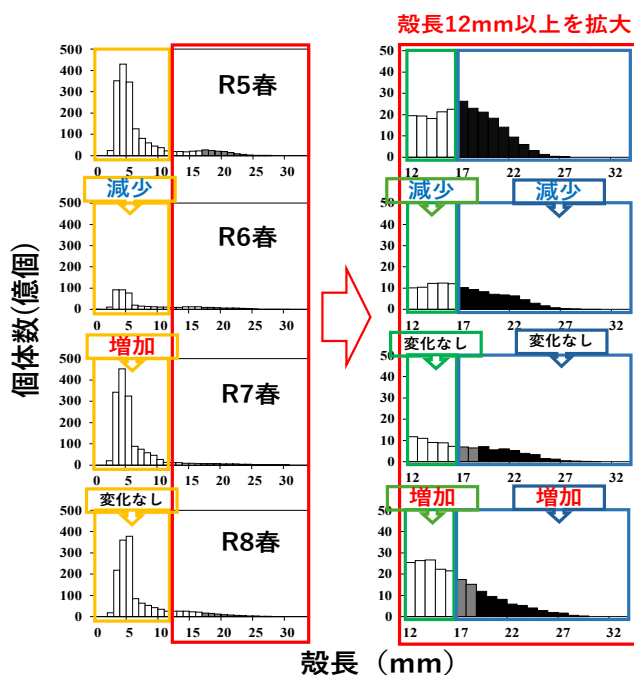


図3 宍道湖のヤマトシジミ殻長組成 R5~8年春季

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp

